

バスがないので困っています 地域交通の充足を！

交通不便をなくしてください

「駅や役所に行くのに、バスがなくて困っています。」
 「年金暮らしで、買い物にもタクシーです。大変です。」
 「バスがないので、ちょっと出かけようと思っても、足が止まる。」



(バス13路線が廃止される前の状況)

交通不便地域をなくしてほしいというのは市民の共通した願いです。

市は、10年前に公共交通空白地域（交通不便地域・右表と地図：人口1万934人）の対策案「宇治市公共交通空白地対策検討」（2007年）を作成していました。

その対策に、乗り合いタクシー等の導入等が示されていました。

それから10年以上たっているのに、対策は実行されていません。それどころか、2013年には、明星町や槇島、小倉・伊勢田地域のバス13路線が廃止され、地域交通の不便な地域が右図・表よりさらに広がり空白地人口は1万7千人になりました。地域などから何度も交通不便の解消の要望が出されていますが、願いはかなっていません。山間地域の区長さんなどから、「ほったらかしにされている」との声もあがっています。

公共交通空白地域と人口・割合 (駅勢圏1000m・バス停圏400m)		
市街地域		人口
①	槇島小倉地域	3,198
②	槇島東部地域	689
③	川東北部地域	215
④	川東中部地域	340
⑤	南山地域	999
⑥	平盛地域	2,115
⑦	大開地域	1,356
⑧	折居台地域	236
市街地域合計		9,150
人口割合		4.9%
山間地域		人口
⑨	白川地域	410
⑩	志津川地域	328
⑪	炭山地域	320
⑫	二尾地域	39
⑬	池尾地域	13
⑭	西笠取地域	141
⑮	東笠取地域	73
山間地域合計		1,784
公共交通空白地人口		10,934
人口割合		5.7%
総人口(外国人登録除く)		190,263

市民生活に欠かせない交通予算の抜本的増額を

今年度の「地域公共交通活性化事業費」（バス運行）予算は365万円です。全国の人口10～20万人都市のバス運行経費の予算は平均で1億円を超えています。

(平成28年度の国交省の報告書より)

実に、**宇治市の30倍以上の予算**です。

全国の自治体は、交通不便地をなくし、住民の足を守るために必要な経費を、適正に予算化しているのです。

宇治市も地域公共交通予算を抜本的に増やして、「のりあい交通」での地元負担を解消すべきです。

炭山でのボランティアによる高齢者たすけあい運行を、地元任せにするのではなく、予算を増額して、行政主体の運行・運営にすべきです。

全国で増える、コミバス・乗り合いタクシー

路線バスが通れない狭い地域も、マイクロバスなどで行政の主体で運行するコミュニティバスの導入自治体は、全国の73.5%、1281市区町村に広がっています。

予約などで、自宅近くの決められた場所等から、駅や公共施設・病院・商業施設等まで行くデマンド型乗合タクシーは、516市町村で実施されています。

(2016年国交省資料より。全市町村数は1741)

だれもが、気軽に、いつでも、どこでも、出かけられるように

日本共産党宇治市議員団
議員団だより
 2020年10月11日
 宇治市役所内22-3141 FAX 24-7884
 Mail:jcpuji@leto.eonet.ne.jp



宮本 繁夫 山崎 恭一 坂本 優子 渡辺 俊三 山崎 匡 大河 直幸 徳永 未来

